

第5回 アカデミックライティング I

《テーマを決める》

平成28年 月 日 ()

Dクラス : 3限目

(担当者)



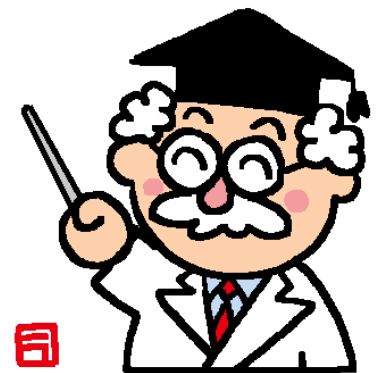
本日の学習目標

1. これまでに学習した知識の確認が出来る
2. ペアやチームで協働できる関係をもつことができる
3. 既習の知識を活かし、ペアやチームで課題レポートの修正ができる
4. チームメンバーの力も借りて、自らのレポートテーマについてのMAPを描くことができる
5. 第2回のレポートについて、自らのテーマに焦点化して構想を描くことができる

前回までの講義の振り返り

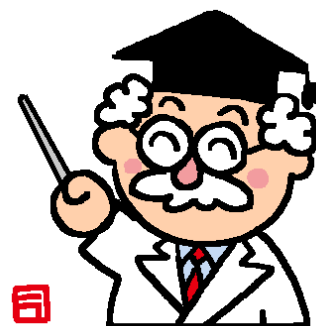
第1章 : 学術的文章とはどのような文章か？

1. わかりやすい文章である
2. 論理的である(思考が整理されている)
3. 事実や根拠にもとづいている
(科学的な文章である)



前回の講義の振り返り

第2章 : 「一文一義」で書く



1. 「一文一義」とは

: 一つの事柄を一つの文で書くこと

→ 分かりやすい文章になるように、自分の思考を整理する。

2. 思考の単位

どこからどこまでを「一義」とするかは人それぞれであることから、状況によって判断する必要があり、他人に(読み手)になったつもりで読み直す必要がある。

3. 文と文との関係

「接続表現」: 節間にあり、その語をなくしたときに文が文法的に崩れるもの

→ 付加、理由、例示、転換、解説、帰結、補足
並列(および、また)、選択(または、あるいは)、転換(ところで)

前回の講義の振り返り

第3章 語句を明確に使う

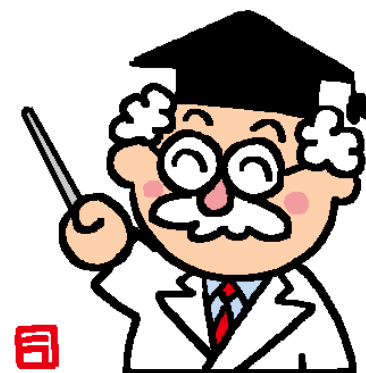
人によって**認識が異なってしまう表現**があることを常に意識し、**書き手が厳密に「意味を特定」して使用する必要がある。**

- 1) **意味が重複する言葉**を一文中で使わない
- 2) **指示代名詞「この」「その」「これ」「それ」**をできるだけ避ける
- 3) **不要な言葉**を使わない
- 4) **助詞「の」**を置き換える
- 5) 不用意に**概念を変えない**
- 6) 並列の関係でない概念を**「や」**で結ばない
- 7) やたらと**抽象的な概念**を用いない
- 8) **固有名詞や実数**はできるだけ置き換えない

前回の講義の振り返り

第1章 : 学術的文章とはどのような文章か？

1. わかりやすい文章である
2. 論理的である(思考が整理されている)
3. 事実や根拠にもとづいている
(科学的な文章である)



★確認Time★

テーマ：自分とメンバーのレポートの評価 & 出来具合
をとらえる！

目 標：メンバー間でレポートの修正ができる☆≡

1. 個人 5分

向かいのメンバーのレポートをしっかりと読み、気づいた点をメモしながら、自分の言葉で表現してみる。

☆採点表に基づいたチェック、気づきをメモ

☆出来ている点>修正したほうが良い点

2. ペア 3分

ペアで順番に考えを述べ合う

相手の話を聴いて、閃いたこと、わかったことなどはメモしておく

3. 再度個人で確認しまとめて、グループで共有

レポート作成論第1回レポート採点表

評価尺度	評価基準	コメント
①マナー (5点)	<input type="checkbox"/> 表紙があり、必要な事項が記入されている <input type="checkbox"/> 手書きの場合、ボールペンで書かれている。ワープロの場合、文字数が記入してある <input type="checkbox"/> ページ番号がある <input type="checkbox"/> 表紙と本文がホッチキスで留められている(左上) <input type="checkbox"/> 締め切り前に提出している。	
②文体 (4点)	<input type="checkbox"/> 「である」調で統一されている <input type="checkbox"/> できるだけ肯定文で書かれている <input type="checkbox"/> くだけた文体で書いていない <input type="checkbox"/> 体言止めを使用していない	
③ルール (4点)	<input type="checkbox"/> 段落が始まる時一字空ける <input type="checkbox"/> 英数字は1マス2文字入れる。ワープロの場合、半角になっている <input type="checkbox"/> 誤字脱字がない <input type="checkbox"/> 指定字数±10%におさまっている	
④学術的文章 (3点)	<input type="checkbox"/> 序論、本論、結論の3部構成になっている <input type="checkbox"/> 自分の意見(結論)に根拠が述べられている。	
⑤一文一義 (4点)	<input type="checkbox"/> 主語と述語が離れていない <input type="checkbox"/> 一つの文章で一つの事柄が述べられている <input type="checkbox"/> 一つの文が40字以下である <input type="checkbox"/> 接続詞が適切に使用されている	

★確認Time★

テーマ：自分とメンバーのレポートの評価 & 出来具合
をとらえる！

目標：メンバー間でレポートの修正ができる☆≡

3. 再度個人で確認しまとめて、グループで共有

* 個人 1分

ペアにもらった助言や考えを述べ合ったことをまとめて、グループでの共有のための準備。

* グループ 5分

グループで順番にまとめを発表する

メンバーの話を聴いて、閃いたこと、わかったことなどはメモして、修正に活かす

★アクティビティ★

文字数は1200字以上



1. 第2回レポート作成の準備をする

1) テーマについて、**キーワード**を考えてみる

キーワード: 例えば...?

2) テーマについての情報を集めてくる

「なぜ」...

「事実」...

「経験」...

「反論」...

どのようにして?
どこから?



★確認Time★

キーワードの抽出例を挙げる！

目標：テーマから思いつくことをあげ、自分に引き寄せてキーワードを出せる

* 個人 2分

思いつくことを自分の言葉で表現してみる

* ペア 4分

ペアで順番に考えを述べ合う

相手の話を聴いて、閃いたこと、わかったことをキーワードにして返す

第4章 「マップ」を作って書く

- ① 皆さんは、レポートなどの文章を書くときに
どのような手順を踏んでいますか？
- ② 実際に文章を書く前にしなくてはならないことを挙げてみてください。
- ③ 「ブレイン・ストーミング」という言葉を聞いたことがありますか？

1. 「マップ」を作って構想を練る

「ブレイン・ストーミング (Brain Storming)」とは？

→「脳に嵐を吹かせる」

→新たなアイデアを生み出すための方法の一つ

4つのルール

「批判をしない」： 他人の意見を批判してはいけない。
批判があると良いアイデアが出にくくなる。

「自由奔放」： こんなことを言ったら笑われはしないか、などと考えず、思いついた考えをどんどん言う。

「質より量を重視」： できるだけ多くのアイデアを出せ。

「連想と結合」： 他人の意見を聞いてそれに触発され、連想を働かせ、あるいは他人の意見に自分のアイデアを加えて新しい意見として述べるというのが一つやり方。



「マップ (Map)」とは？

→「ブレイン・ストーミング」のプロセスの一部

→概念を連鎖的に思い起こし、地図のように紙に書き表す

方法

- ① 紙の中心に○を書き、その中に書こうとしている中心的な内容を単語(キーワード)で書き入れる。
- ② その○から線を引きながら次々と連想される言葉を書き出していく。
- ③ キーワード同士の関連を線で表す。

Cf. マインドマップ

トニー・ブザン(Tony Buzan)が開発した、自分の考えを絵で整理する表現方法。脳の思考を開放するといわれている「放射思考」に基づいて考案された、従来とは全く違うノート術・発想術のこと。



**現代のノート法の欠点の裏返し
が、マインドマップの長所！！**

**百聞は一見に如かず☆
マインドマップ事例集！**

<http://mindmap.ainest.com/gallery.html>

★確認Time★

グレインストーリーミング、マインドマップについて理解する(方法、ルールなど)

* 個人 1分

自分の言葉で表現してみる

* グループ 4分

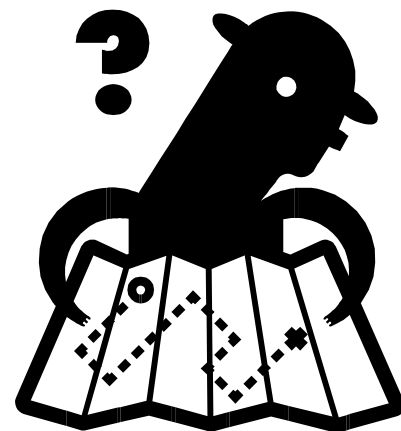
①互いの理解を述べ合い紹介する

②互いの意見から話し合い、理解を深める

★アクティビティ★(5分)

第2回レポート課題として考えたテーマについて、「マップ」を作成してみよう！

周りの人と相談せず、まずは
一人で作成すること！



2. 「マップ」をもとに他者と交流する

マップを見せながら相手に口頭で説明する



交流することで
考えを**再確認**し、
新たな気づきがある！

一番興味があるのは何か？
何をどのように調べたいか？
どこが不明瞭か？
他に大切な要素はないか？

同意や自分の気づいたことを伝える。または、質問をする

相手に同意・指摘・アドバイスをもらった内容は「他者との交流メモ」に記載する。

★Mapで交流&発展Time★

各自のマインドマップについて説明しあうことで

* 個人 1分

自分の言葉で発表するため、表現してみる

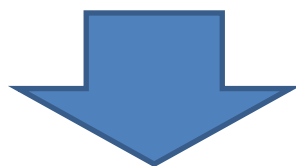
* グループ 5分

- ①互いの理解を述べ合い紹介する 1人2分
- ②4人とも発表し終わったらお互いに感想や気づき、閃きを伝えあう(発表者のことでも自分のことでも☆彡)
- ③互いの意見から話し合い、理解を深める

3. 「マップ」を使って 論文の中心と範囲を決める

★アクティビティ★(5分)

集めてきた材料や他者からのアドバイスを参考
にもう一度「マップ」を作成しよう！



次回課題レポートで扱いたい内容
の中心と範囲が決まる！！

思考を整理するためのその他の方法

- ・スパイダー図
- ・KJ法
- ・ロジックツリー法
- ・カード図解法



思考を整理するだけでなく、広く質的研究の分析にも用いられている

次回までの課題

- ・「マップ」を完成させて、序文書いてみる。
- ・テキスト 第9章 「参考文献を示す」p60～
を読んでくる。

文献

- ・佐渡島紗織,吉野亜矢子:04「マップ」を作って書く,これから研究を書く人のためのガイドブック,ひつじ社,p26-31,2010.
- ・トニーブザン公認 初心者のためのマインドマップ,
<http://mindmap.ainest.com/howto.html>(2016.3.13閲覧)
- ・小論文は”型”で勝つ～テストの花道より:
<https://www.nhk.or.jp/hanamichi/p2013/130930.html> (2016.3.31閲覧)
- ・山浦晴男:質的統合法入門:考え方と手順,医学書院,2012.
- ・安永悟,須藤文:LTD話し合い学習法,ナカニシヤ出版,2014.ほか